



令和 5 年度 共通研究主題

学びの意義を実感し自ら学び続ける
生徒を育成する指導と評価の在り方



日 時 令和 6 年 2 月 10 日 (土) 8:50~15:15

8:30 8:50 9:10 10:00 10:15 11:05 11:20 12:30 13:30 15:00 15:15

受付	全体会	移動	公開授業Ⅰ (50 分)	移動	公開授業Ⅱ (50 分)	移動	研究協議会 (70 分)	昼食	教育講演会 (90 分)	閉会式
----	-----	----	-----------------	----	-----------------	----	-----------------	----	-----------------	-----

会 場 岡山大学教育学部附属中学校 (岡山市中区東山 2 丁目 13 番 80 号)

参加申込

QR コードまたは申し込みフォームから必要事項をご入力の上、
令和 6 年 2 月 5 日 (月) までにお申し込みください。

(申し込みフォーム) <https://forms.gle/mp1Rry4NweqrC3PFA>

お弁当が必要な方は事前にフォームにてお申し込みください。

※当日の昼食の販売はありませんので、ご了承ください。



参加費 無料

教育講演会

「学び続ける生徒の育成を目指した
指導と評価の改善に向けて」

講師：藤野 敦 先生 文部科学省初等中等教育局 視学官

(併) 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官

(併) 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官



主催：岡山大学教育学部・岡山大学教育学部附属中学校

後援：岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

第37回中学校教育研究発表会
令和6年2月10日(土)

岡山大学教育学部附属中学校

8:30 8:50 9:10 10:00 10:15 11:05 11:20 12:30 13:30 15:00 15:15

受付	全体会	移動	公開授業Ⅰ (50分)	移動	公開授業Ⅱ (50分)	移動	研究協議会 (70分)	昼食	教育講演会 (90分)	閉会式
----	-----	----	----------------	----	----------------	----	----------------	----	----------------	-----

ご挨拶

皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の研究活動にご協力を賜り、心からお礼申し上げます。本校では昨年度から「学びの意義を実感し自ら学び続ける生徒を育成する指導と評価の在り方」を共通研究主題として、教育実践に取り組んで参りました。学校教育目標「自主自律 豊かな心でたくましく」の基、各教科が意義や価値を実感できる学びを計画・実施し、評価の場面や方法において適切にフィードバックを行うなどの工夫・改善をすることで、自ら学び続ける生徒の育成をねらっています。

当日は格別のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。校長 まえだ きよし 前田 潔



全体会
自ら学び続ける生徒を育成するために、指導のみならず評価にも重点をおいて研究を進めてきました。各教科が単元(題材)全体を通して育成したい資質・能力を明確にし、作成した「指導と評価の計画」を生徒や保護者とも共有し、妥当性・信頼性のある評価の工夫や指導の改善を図ります。評価をフィードバックする際の工夫等について、当日ご参加の先生方と協議できることを楽しみにしております。 よねばやし てつろう 研究主任 米林 哲郎

表の見方			
教科 科	授業者	実施クラス	場所
	本時の学習課題・テーマ		
授業のポイントや目指す生徒の姿			

公開授業Ⅰ							
国語	よしふじ　　なお　　き 吉藤　　亨希	2年C組	2年C組教室	理科	やまもと　　よしゆき 山本　　芳幸	3年E組	第3理科教室
	わかりやすく「話す」とは。				電力の需要と供給を考える。		
SNSや情報機器の急速な発達により表現が多様化し、かつ手軽になっている昨今だからこそ、自己の表現を見つめ直し改善していく力が必要ではないでしょうか。『話す』という表現に焦点化し、方法意識を喚起して『提案』に迫ることで、自覚的に表現する生徒の育成を目指します。				本授業では、電力の需要と供給のバランスを、時間や状況が変化していく中で保つ仕組みを考える。その活動を通して、自然の事物・現象を多面的・総合的に捉え、科学的な探究を通して、課題を解決しようとする生徒の育成を目指します。			
社会	わたなべ　　あきら 渡邊　　晶	3年C組	3年C組教室	英語	かじやま　　かずとし 梶山　　和俊	2年E組	2年E組教室
	【公民的分野】 日本は、世界の平和のためにどのような関わり方をするができるだろうか。				「対話力」を鍛える。		
世界をながめると、実際に戦争に発展している地域や世界での覇権を目指し着々と計画を進めている国が見られます。そのような中で平和主義を掲げる日本には、どのようなことができるのか、さまざまな視点で考え、比較・検討することによりよい世界を作ろうとする態度を育てることを目指します。				今日の社会では、多様性を原動力とし、他者と協働して課題を解決していく力が求められています。目的・場面・状況に応じて自身の考えや気持ちを即興で伝え合う力や対話を継続・発展させる力が必要です。方略を駆使し、教師・生徒同士・ICTなど、様々なフィードバックを活用しながら力を育むことを目指します。			

公開授業Ⅱ							
国語	けんもつ たいち 鉦持 太一	1年A組	1年A組教室	美術	たけ だ そういちろう 武田 聡一郎	3年B組	美術教室
	そもそも「話す」とは。				私と社会をつなぐ椅子		
SNSや情報機器の急速な発達により表現が多様化し、かつ手軽になっている昨今だからこそ、自己の表現を見つめ直し改善していく力が必要ではないでしょうか。『話す』という表現に焦点化し、相手意識を喚起して『説明』に迫ることで、自覚的に表現する生徒の育成を目指します。				「この世界のどこに、どんな椅子を置きたいか？」を考え、椅子を制作します。実際に自分がつくった椅子を、意図した場所に置くことができたらしきとおもしろいはず。自分と社会の関わり方について、新たな気づきが生まれることを期待しています。			
社会	よねばやし てつろう 米林 哲郎	2年C組	2年C組教室	保健体育	ふじもと こうき 藤本 浩輝	2年A組	体育館
	【歴史的分野】 産業都市大阪・神戸の発展から何が見えるか。				バスケットボール ～ゲーム論からのアプローチ～		
近代産業の発展は、都市の拡大をもたらしました。明治政府が目指した近代国家の形を表現する手段の一つとして、大阪・神戸の発展を捉えていくことが有効だと考えました。地理的・歴史的な背景を踏まえつつ、殖産興業や富国強兵との関連から近代国家の姿を表現できる生徒を目指します。				ゲームとしてスポーツをとらえ、今ある場所と仲間でプレイフルに楽しむことに着目した学習活動を展開します。チーム全員がプレイフルに楽しめるように、チーム毎に課題を見出し、主体的に学習に取り組んでいきます。ゲーム中心の学びの中で、プレイフルに楽しむために必要な資質・能力を高めていく姿を目指します。			
数学	おおにし まさし 大西 修司	3年D組	3年D組教室	技術	ひなた よう へい 日向 洋平	1年E組	第3技術教室
	予測について、調査の方法や結論が適切であるかどうかを検討し合おう。				木材の接合方法を考えよう。		
身近にあるデータを活用して、母集団の傾向を推定するために、標本調査を行います。調査の方法や結果、結論が適切であるかどうか自他共に検討しあう活動を通じて、問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとしたり、新たな問いを見いだしよりよく問題解決しようとしたりする生徒の育成を目指します。				様々な木材の接合方法を実際に試してみて、メリットやデメリットに気づき、自身の作品作りに生かすヒントにします。また、その接合方法の中から消費者の視点、生産者の視点を整理し、技術科ならではの見方・考え方が高まることをねらっています。			
理科	まつもと ゆ き や 松本 侑希也	1年C組	第1理科教室	家庭科	ひ うら もと こ 日浦 基子	1年D組	被服教室
	地球の構造を密度で捉える。				よりよい家庭生活を目指して。		
生物が進化を遂げてきたように、地球もまた進化をしてきた。その過程で生まれる石によって、層構造が生まれたとされている。本授業では、岩石の密度から地球の構造を探究し、それらの石を密度で捉えることで自然の事物現象を多面的・総合的に捉えさせたい。科学的な探究を通して、課題を解決しようとする生徒の育成を目指します。				協力・協働の視点を意識して取り組んできたパフォーマンス課題「どうする〇〇家」の解決策を共有する活動に取り組みます。他者と繋がり、互いの考えを取り入れながら、よりよい家庭生活を目指して、考えを深める生徒の育成を目指します。			
音楽	みむら ゆ み こ 三村 悠美子	2年B組	音楽教室	O C	よしこ ボンド 良子 デール クラドック Dale Craddock	2年D組	2年D組教室
	君たちはどう創るか。				「対話力」を磨く。		
合唱を創りあげていく過程で、自分たちの歌唱が目指す像を具体化させるとともに「目指すものに向かう取り組みとしてどうだったか」「そもそも何を目的として歌うのか」について、深く考えさせます。こうした学びを通して、音楽を学ぶ意味や「音楽とは何か」を考える生徒の育成を目指します。				英語の授業で学んだことをもとに、やり取りにおけるフィードバックの視点を発展させます。「質問」や「言い換え」のコツを意識したり、論理的に話せるよう「三角ロジック」の構造を意識したりするなどして、不必要な間を挟まずに主体的に英語でやり取りを楽しむことができる生徒の育成を目指します。			

研究協議会 11:20 ~ 12:30

教科 (協議会場)	研究主題 / 指導助言者
国語 (1年A組教室)	考えを自覚的に表現する生徒の育成～「話す」力を鍛える指導と評価の在り方～ 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 室川 基 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 宮本 浩治 岡山大学学術研究院教育学域 講師 池田 匡史
社会 (2年C組教室)	自己と社会のつながりを実感し、課題に対する納得解を導こうとする生徒の育成 ～主体的・対話的に納得解を追究する活動を通じて～ 岡山県教育庁義務教育課 指導主事(主幹) 仁後 知佳 岡山大学学術研究院教育学域 教授 桑原 敏典 岡山大学学術研究院教育学域 教授 山田 秀和
数学 (3年D組教室)	探究する力を高める数学的活動の指導と評価の在り方について 岡山市教育委員会事務局 学校教育部学校指導課 指導副主査 小村 将司 岡山大学学術研究院教育学域 教授 岡崎 正和
理科 (第2理科教室)	自然の事物・現象を多面的・総合的に捉え、科学的な探究を通して、課題を解決しようとする生徒の育成 ～システム思考を促す理科のカリキュラム～ 国立教育政策研究所 学力調査官 神 孝幸 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 近藤 広理 岡山大学学術研究院教育学域 教授 藤井 浩樹 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 川崎 弘作
音楽 (音楽教室)	豊かな創造性を備えた生徒の育成 ～生活や社会における音楽の意味や価値を探ることを通して～ 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 谷口 香織 岡山大学大学院教育学研究科副研究科長 教授 小川 容子
美術 (美術教室)	創造活動の「遊び」に没頭する生徒の育成 岡山県総合教育センター研修部 指導主事(班長) 田井 良和 岡山大学学術研究院教育学域 教授 清田 哲男
保健 体育 (2年A組教室)	豊かなスポーツライフを実現する生徒の育成 ～「ゲーム」としてスポーツをとらえた指導と評価の在り方～ 岡山県教育庁保健体育課 指導主事(主任) 宮崎 准二 岡山大学学術研究院教育学域 教授 足立 稔 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 原 祐一
技術 (第3技術教室)	生産者の視点から、課題の解決に向けて取り組む生徒の育成 岡山県総合教育センター企画部 指導主事 大守 徹 岡山大学学術研究院教育学域 教授 入江 隆
家庭科 (被服教室)	他者とつながる力を高め、SDGs を意識したよりよい生活を創造できる生徒の育成 ～家族・家庭生活領域の学びを深める指導と評価の工夫～ 岡山県総合教育センター研修部 指導主事 前田 望美 岡山大学学術研究院教育学域 教授(特任) 考藤 悦子
英語 (International Room)	円滑なコミュニケーションを図るために、考えや思いを即興で伝え合うことができる生徒の育成 ～話すこと(やりとり)におけるパフォーマンスを向上させるフィードバックの工夫～ 岡山市教育委員会事務局学校教育部学校指導課指導副主査 佐藤 泰輔 岡山大学学術研究院教育学域 教授(特任) 高塚 成信 岡山大学学術研究院教育学域 准教授 小山 尚史

交通案内

JR 岡山駅から路面電車
「東山行」に乗車
終点「東山・おかでんミュー
ジアム駅」から南に徒歩5分



地図

お問い合わせ

岡山大学教育学部附属中学校
〒703-8281 岡山市中区東山二丁目13番80号
電話 086-272-0202
FAX 086-272-7941
Mail fuchu@fuzoku.okayama-u.ac.jp
研究主任 米林 哲郎